

立地環境

1 速やかなアクセス～北海道の食と物流の拠点

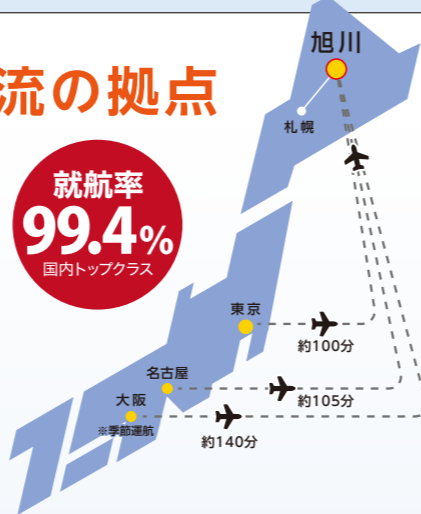
旭川へのアクセス

旭川市は市内中心部から車で30分の位置に旭川空港を有しており、本州と結ぶ空路を利用することで、日帰り出張が可能となっています。旭川から東京までは1日7往復、片道100分で結ばれており、名古屋とは1日1往復、片道105分、大阪とは片道140分(季節運航)で結ばれているほか、平成30年には、国際線ターミナルを整備し、台北への定期便をはじめ、アジアを中心としたチャーター便が就航しています。



旭川空港

就航率
99.4%
国内トップクラス



道内物流拠点としての優位性

旭川市は、道内交通の要衝として発展してきた経過から、道内各地につながる国道や高速道路、鉄道の結節点にあります。北海道縦貫自動車道旭川北I.C.、旭川鷹栖I.C.から札幌(片道1時間40分)や千歳(片道2時間7分)、そして本州に出荷する際の積出し拠点である苫小牧(片道2時間30分)や小樽(片道2時間9分)といった主要港とつながっています。また、北旭川駅は、日本最北端の貨物駅であり、道北地域において重要な物流拠点となっています。このように道内物流の集積地であり、「食の宝庫」である北海道各地から、新鮮な農作物や魚介類が集まる一大拠点となっています。

動物園通り産業団地の立地環境

動物園通り産業団地は、多くの映画やドラマのモデルとなった「旭山動物園」の麓に位置しています。旭川空港と北海道縦貫自動車道旭川北I.C.の中間地点に位置し、旭川空港から12km、旭川北I.C.から8km、市中心部から8kmと各アクセスポイントと近接しています。隣接する旭川工業団地(97.4ha)には自動車・金属加工・家具・食品加工等、約160社の企業が集積しており、既存立地企業との協力・連携による事業展開が可能となっています。



動物園通り産業団地

3 優遇措置

旭川市工業等振興促進条例

要件
工場等の新設・増設
・2500万円以上の投資(土地を除く)
・5人以上の新規雇用

※コールセンター業等の場合は投資を要しないが、中心市街地への新増設の場合10人以上の新規雇用、その他への新増設の場合は20人以上の新規雇用
※特定業務施設(本社機能)の場合は、2500万円以上の投資と3人以上の新規雇用

課税免除	固定資産税・都市計画税を3年間免除 ※環境配慮型施設整備の場合は5年間
工場等設置助成金	事業所税相当額を3年間助成
雇用助成金	一人当たり30万円以内を3年間助成 (上限3000万円/年)
土地取得助成金	取得価額の25%を助成(上限1億円) ※工業専用地域、動物園通り産業団地に限定
工場等改修助成金	1000万円以上の工事費の1/2を助成 (上限2000万円)※賃借物件に限定
操業前研修助成金	一人当たり20万円を助成(上限500万円) ※コールセンター業等に限定
環境配慮型施設整備助成金	5000万円以上の施設整備費の1/2を助成 (上限5000万円)
操業助成金	上下水道使用料・通信回線使用料・ビル賃借料・電気料金のうち一つについて年間使用料の1/2を3年間助成(上限500万円/年)

※そのほか北海道の優遇制度との併用も可能です。詳細はお問合せください。

2 BCP(事業継続計画)の最適地 自然災害リスクの少ない環境

低災害リスク地域

旭川市では観測史上、震度5以上の地震は一度も発生しておらず、今後30年間で震度6弱以上の地震が発生する確率は0.55%であり、47都道府県庁所在地と道内の総合振興局・振興局のある都市の中で最も低い値となっています。

台風についても、旭川を通過するときには勢力が衰えておりますし、内陸に位置していることから津波や高潮、そして潮風による塩害の心配もありません。

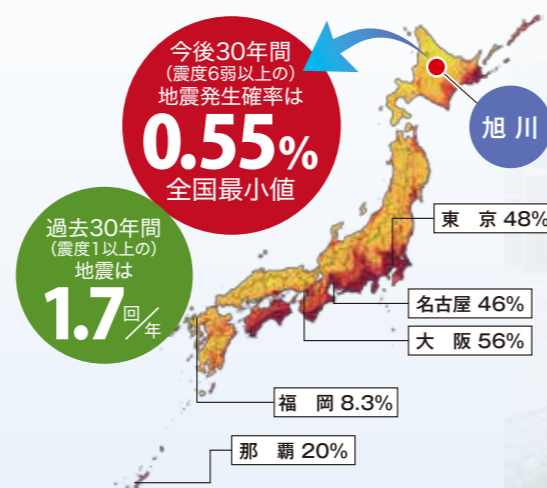
万全の除雪対策

12月中旬頃から2月上旬頃は、日最高気温が氷点下を下回り「真冬日」が続くこともあります。盆地特有の気候で風が弱いことから(年平均風速3m/秒)、厳寒期でも体感温度を和らげてくれます。

また、年間で7mほど降雪がありますが、除雪が24時間体制で迅速に対応しており、幹線道路は、朝までの降雪量が10cmを超える予測の場合出勤し、午前7時までは除雪が終了する体制をとっていますので、雪による交通障害が非常に少ない地域です。除雪体制が整っているからこそ、降雪地域にありながら「旭川空港」は高い就航率を誇っているのです。

自然災害の少なさは全国トップクラス!

クラウド時代のディザスタ・リカバリ拠点



今後30年間震度6弱以上の地震発生確率

地震調査研究推進本部調べ(2018年版)

